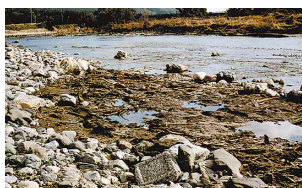


発見は河原から...

環境史研究領域(古植物学)
山川 千代美



河原には、多様な生物が生息しているだけでなく、その地域の自然の歴史や過去の環境の様子を知る手掛かりとなる石ころや地層が露出しています。地層には植物化石が含まれていることがあり、植物化石を調べることで、その地層が堆積した時代の植物相や古環境を明らかにすることができます。



2004年、滋賀県高島市安曇川町長尾付近の安曇川の河原に分布している泥層から、多量の木材化石が産出しました。木材化石は、幹の幅約50cm、長さ約4mで、丸太が圧縮されて板切れ状になっています。木材化石を含む泥層からは、針葉樹のトウヒ属の球果や落



葉広葉樹のクルミの堅果、エゴノキやハンノキの種子が産出しています。また、河道では長径が約65cmある樹根化石が十数個見つかり、化石林の存在が確認されています。化石林を含む地層は、今から約100万年前後に堆積したと考えられており、当時トウヒ属などの常緑針葉樹とクルミやエゴノキ、ハンノキなどの落葉広葉樹が混生する森林が広がっていたと推測されます。

木材化石が産出したのは、大雨による流水で河原の地層が浸食を受けたためです。常に変化している河原では、貴重な化石が失われる反面、新たな発見が待ち構えているのです。

自分の幼い頃に比べ、水辺で遊んでいる子どもが少なくなったような気がします。

魚が大好きな知功と「おの会」に参加したのは数年前のことです。うおの会の調査では胴長をはいて親子で川に入り魚をとりまわります。どんな魚を採取できたか、互いに見せ合います。参加することに魚とりもうまくなり、知識も増えて、さらに楽しむことができます。親子で喜びを共感できる、すばら



しい時間です。川に入っているといういろいろなことに気づきます。琵琶湖や川に関心を持ち接することの大切さ、これから自分たちが守るべきものなど、知功も多くの学びを学んだようです。

観察していると、魚にも好き嫌いがあるようです。

きれいに見える川でも、魚に嫌われたところがあります。環境がよいところに集まってくるのは人も魚も同じようです。人と魚が集うことのできる環境こそ理想なのだと気づきます。

子どもが大きくなると同じような体験をするとき、身近な川がせめて今のままであってほしいと願います。

琵琶湖の水環境は自分たちの生活そのものです。うおの会の活動では子ど

も楽しみながら、水環境を見つめ、考えることができます。いつまでもみんなが集える水辺のために、これからも親子で楽しく環境調査を続けていこうと思います。

みなさん子どもといっしょに楽しみませんか。



こんにちは！ 展示交流員です。



今回は、A展示室で行なわれた「交流員と話そう」からの取材です。来館者の方とどんな交流があったのでしょうか。

「岩石は語る 鉱物は語る」
(澤井交流員)
このテーマを選んだ理由は？

岩石や鉱物はさまざまな物の材料・原料になりますし、宝石も鉱物からつくられるものが多いです。岩石や鉱物のもつ多様な側面を知ってもらえればと思いました。

偏光顕微鏡とはどんなものですか？

私たちは、琵琶湖博物館の案内だけでなく、展示を通してみなさんと交流し、みなさんに身近な自然や生活へ目を向けていただく『かけはし』となっています。どうぞお気軽にお声をかけてください。



偏光板を通して観察するもので、この顕微鏡で鉱物(岩石薄片)を見ると非常にきれいな色がついて模様があざやかに見えるものもあります。

反応はどうでしたか？

紙コップを使った偏光スコープは評判がよかったです。また、顕微鏡を観察してもらいながら岩石・鉱物の話をする

と、皆さん興味深そうでした。

「ストロマトライト」
(柳原交流員)
ストロマトライトとは？

地球ができて最初に光合成を行なったと言われるラン藻の化石で、一番古いもので25億年ぐらい前の化石が発見されています。今もオーストラリアのハメリンプールという所に現存しており、化石がディスプレイルームにあります。

このテーマを選んだ理由は？

昨年は46億年というスケールでそれぞれの時代での植物や動物の発生・絶滅についてお話をしました。今回は、その中で1つのテーマに絞ることにし、私たちに必要な酸素を最初につくり出したストロマトライトを選びました。

この長い長い巻物は？

46億年前から現在までの年表を巻物で作りました。来館者の方に片方を持ってもらって延ばしていくんです。これで年代の感覚がわかってもらえるのではと思いました。

印象に残ったことは何かありますか？

恐竜の話をするとき活き活きとされている子どもさんがおられました。また、車いすを利用されている方が年表を行ったり来たりして熱心にご覧になっておられました。



自作の年表